

24 WED  
2019.JULY  
25 THU

# 天神祭

大阪天満宮

陸渡御・船渡御ガイド



## 天神祭の歴史

大阪天満宮が創祀された翌々年、天曆5年(951)に天神祭は始まりました。この年、社頭の浜から神舁を大川に流し、下流の漂着地にその年限りの御旅所を仮設する「鉦流神事(ほこながしんじ)」が行われ、これ以後、年に一度、神様は御旅所に「渡御(ときよ=神様がにお出掛けになること)」されることになったのです。この渡御を慶んだ地元民が、お供の行列を仕立てたのが天神祭の始まりです。渡御列は、陸路で氏地を巡った後、船に乗り換えて船路で御旅所に向います。陸路を「陸渡御」、船路を「船渡御」といいます。

当初の天神祭は、神職と氏子・崇敬者による地域祭礼でしたが、江戸時代になると全国にその名を知られるようになりました。江戸時代初頭に御旅所が常設されると、御旅所周辺の氏子たちも船渡御をお迎えするための「御迎え船(おむかえぶね)」を仕立てました。さらに、大阪に元禄文化が華開くと、御迎え船には豪華絢爛の大型人形が飾られ大きな話題になりました。これを「御迎え人形」といいます。

戦後になると、船渡御は大川の upstream に向かうようにコース変更を行いましたので、現在は、天神橋付近から船渡御の船列が上流に向い、飛橋付付近から「奉拝船」の船列が下流に向います。



菅原道真公

### OSAKA 広域MAP

**Osaka Metro**

- 御堂筋線
- 谷町線
- 四つ橋線
- 中央線
- 千日前線
- 長堀鶴見緑地線
- 今里線
- ユートラム南港ポートタウン線
- 新幹線
- JR
- 私鉄各線
- 観光案内所

**夏の祭りの伝承**

- 1 愛染まつり 6/30(日)~7/2(火)
- 2 星裳七夕祭 7/7(日)
- 3 いたくま夏祭 7/11(木)~12(金)
- 4 平野郷夏まつり 7/11(木)~14(日)
- 5 露天神社(お初天神)夏祭 7/19(金)~20(土)
- 6 高津宮夏祭 7/17(木)~18(木)
- 7 住吉祭 7/30(火)~8/1(木)
- 8 ことまえばす祭 7/22(月)~7/23(火)
- 9 だいがく祭 7/24(水)~25(木)
- 10 萬(かがり)の舞楽 8/4(日)

### 「天神さん」で結ばれる 大阪天満宮の結婚式

Special Bridal Fair  
スペシャル フライダルフェア  
2019年8月4日(日) (完全予約制)  
模擬挙式・カップル試着体験・料理試食

**天満宮会館**  
TEL:06-6351-0025  
http://www.temmangu-kaikan.jp

挙式・ご披露宴、各種宴会のお申込み・お問合せはこちら

### 天神祭 陸渡御・船渡御マップ

主な下車駅

- ◆天満宮 (Osaka Metro谷町線・堺筋線) 南森町駅、(JR東西線) 大阪天満宮駅
- ◆鉦流神事 (Osaka Metro堺筋線・京阪) 北浜駅、(Osaka Metro御堂筋線・京阪) 淀屋橋駅
- ◆陸渡御 (Osaka Metro谷町線・堺筋線) 南森町駅、(JR東西線) 大阪天満宮駅、(Osaka Metro堺筋線・京阪) 北浜駅、(Osaka Metro御堂筋線・京阪) 淀屋橋駅
- ◆船渡御 (Osaka Metro谷町線・京阪) 天満橋駅、(JR環状線) 桜宮駅、(Osaka Metro谷町線) 都島駅

陸渡御コース (Land procession course)

船渡御コース (Boat procession course)

船渡御特別観覧席

### 「大阪じめ」で天神祭に参加しよう

大阪じめは天神祭に欠かせない所作のひとつ。これを習得し、祭り気分を体感しましょう。やり方はイラストの通り、ごくカンタン。船渡御では、船と船がすれ違うたびに行なわれます。関西では祭りの他、証券取引所や経済会合でもこの大阪じめが用いられるなど、浪速の商には欠くことのできない習慣です。では、皆さんと一緒に!

①打ちまへしよ。 ②もひとつせ。 ③祝つて三度。

御迎え人形スタンプラリー

詳しい場所は上記MAPをご覧ください

江戸時代中期の天神祭に「御迎え人形」が登場しました。元禄文化が華開いた時代に、歌舞伎や文楽のキャラクターをモデルに、豪華絢爛の大型風流人形に作られたのです。祭礼当日には、船渡御を出迎える「御迎え船」の船先には、幕末には50体を数えました。現在は16体が伝来していますが、大阪府指定有形民俗文化財であるため船には乗せられません。そこで、天満宮境内など敷地に飾ってスタンプラリーを楽しんでください。

令和元年7月吉日 大阪天満宮

◆スタンプシートの授与

■場所: 大阪天満宮 授与所  
■日時: 7月4日(木)~25日(木) 10~17時 (ただし25日は正午まで)  
(注) 御迎え人形修復基金として、1枚につき100円をご寄付いただけます。

### 「天神祭」を守り、後世に伝える 応援サポーターを募集します。

クラウドファンディングサービスにて天神祭運営資金を募ります! 詳しくは、大阪天満宮まで ☎06-6353-0025

### 帝国ホテル 大阪で天神祭を満喫する夏

7月11日(月)から25日(木)まで、帝国ホテル 大阪では天神祭に関するさまざまな催しを開催しております

「御迎え人形展示」「風講子供みこし展示」  
(子供みこしは7月23日までの予定)  
大阪府有形民俗文化財の「御迎え人形」11体と、現存する16体を再現したミニチュア「京原人形」祭に彩る「風講子供みこし」をロビーに展示します。

「天神講獅子と風講子供みこし館内練り歩き」  
(7月24日のみ)  
天神講の獅子舞や傘踊りの演舞と風講子供みこしの勇壮な練り歩きを館内でご覧いただけます。  
時間/12:00~(予定) 約30分

天神祭 特別レストランプラン (7月25日)  
各店舗、一夜限りの特別メニューをご賞味いただけるながら、天神祭をお楽しみいただけます。

帝国ホテル 大阪  
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-50  
TEL.006681-1111 (代表)  
https://www.imperialhotels.jp



荘厳な神事から祭りの幕が開く

宵宮は厳かな神事から始まります。朝8時半に天満宮表門を出発、旧若松町浜で、幻想的なムードの中、鈴流し神事が執り行われます。催太鼓や獅子舞の氏地巡行は午後4時からと間があるので、境内や屋台をのぞいたり、中之島公園付近でどこか船を見物するのもおすすめです。

**7:45 宵宮祭**  
いよいよ天神祭のスタート  
天神祭の始まる24日の朝、7時45分より本殿にて宵宮祭を斎行。8時半すぎ、白木の神鈴を手にした神童や供奉人、約200人の行列が天満宮の表門を出発し、旧若松町浜の祭場へと向かいます。

**8:50 鈴流神事**  
祭りの開幕を告げる厳かな神事  
8時50分ごろ、夏越歌いの神事の後、斎船で堂島川の中ほどに漕ぎ出し、神楽歌の調べの流れる中、船上から神童の手によって神鈴が流され、市民の平安が祈願されます。天神祭の幕を切って落とす厳かな神事です。

**16:00 催太鼓** ※大阪府指定無形民俗文化財(記録選択)  
低音を響かせ渡御の先陣を切る(氏地巡行～宮入り)  
陸渡御の先陣を切るのが催太鼓です。宵宮では氏地を巡り、夕刻には宮入ります。この太鼓は、大阪城の太鼓と伝えられ、豊臣家から拝領したという由緒正しき代物。見どころは太鼓の下に丸火を敷き、大きく揺らして打つ「からうす」。真紅の投頭巾をかぶった顔入と呼ばれる打ち手が、前後に飛ばされるようになりながら力強く重低音を響かせる様は圧巻です。

**終日 地車囃子**  
祭り気分を盛り上げます!  
境内には地車が飾られ、地車囃子が響きわたります。軽快なリズムに乗って演じるのが「龍おどり」、踊手たちの巧みな指使いが特徴的で、別名「蛇おどり」とも呼ばれています。

**18:30 獅子舞**  
ほれぼれる華麗な舞を披露  
大型の獅子頭を見事ながら華麗な舞を披露してくれる獅子舞の団は、幼い子供たちから大人まで500人近い大所帯。獅子は一見おどろおどろしいけれど、ユーモラスな表情も垣間見せてくれます。獅子舞に連なって小さな傘をかざして踊る「傘踊り」と、小さな竹片を鳴らして踊る「四つ竹」も、なかなかの風情。親子二代で獅子を務めているという方も多そうです。

**23日 ギャルみこし**  
華やかにそして爽やかに興奮をかき立てる  
天神祭の前日、23日のお楽しみ。今年もまた、華やかに爽やかに天神橋筋商店街を駆け抜けます。オーディションを勝ち抜いたみこしギャル約80名のみこしを昇り光景は、魅力も迫力も満点です。

勇壮な催太鼓に導かれ渡御列発進

渡御は天満宮表門をスタートし一路西へ、御堂筋方向へと向かいます。一団は御堂筋を南下し、中央公会堂前の筏敷へ。さらに中之島公園を東へ向かい、天神橋北詰で船渡御のための乗船を開始します。

**15:30 陸渡御列発進**  
絢爛に優雅に時代絵巻を描く約3千人の大行列!(氏地巡行)  
大阪の繁栄と市中、市民の平安を祈る「本宮祭」と、列の中心である御鳳凰に御神霊をお移りする「神霊移御之儀」が行われ、渡御の準備が完了します。午後3時30分、催太鼓の音を先頭に、豪華な衣装をまとった約3000人の大行列が浪速の街を華麗に彩ります。

**16:20 御羽車**  
のんびりムードで見物人もおもしろい  
時代絵巻にふさわしい、物静かな一団。人力で担ぐ当時の乗り物はなんとも、のんびりとした雅な味わいにあふれています。道真さまもここで優雅に公務にあたっていたのかもしれない。

**16:30 御鳳凰**  
渡御列の中心となる御神霊を奉安した見事な神輿  
この御鳳凰は、菅原道真公の御神霊をお乗せしたありがたいお神輿です。沿道の皆さんは、鳳凰の飾りのついたこの神輿に向かってそれぞれお語りしましょう!

**16:40 鳳神輿・玉神輿**  
祭り気分を盛り上げます!  
後半の主役は「鳳神輿」と「玉神輿」の両雄です。まずは鳳神輿の出番。筋内隊々の昇り手によって華麗な神輿が威勢よく躍動します。その余韻もさめぬ間に、玉神輿が豪快に舞い上がります。両神輿はライバル心むき出しに情熱をたぎらせます。

**23~25日終日 御迎え人形**  
お祭りのもうひとつの華  
天神祭の期間中、境内に展示されている豪華絢爛な衣装が印象的な「御迎え人形」。これが登場したのは、江戸時代の中盤で、当時は氏地であるそれぞれの町の顔として、祭りの日、町角に飾られていました。そして船渡御の際には、人形を船先に立て大川をのぼって御神霊をお迎えたことから「御迎え人形」と呼ばれるようになったそうです。高価な金糸や銀糸で織った美しい図柄に加え、当時としては贅の限りを尽くした小道具など、まさに豪華絢爛なもの、現在の貨幣価値で換算すれば一体がなんと何千万円もかかるというものです。府の文化財に指定されています。

百艘もの大船団が大川を華麗に航行

船渡御は、天神橋北詰めをスタートして大川を北上し、飛脚橋の先でUターンします。天神橋や天満橋付近は、見物客の満ち、また満ち〜じつくり船渡御を楽しみながら、桜宮公園の北部にある源八橋や都島橋、飛脚橋近くの両川岸あたりが狙い目です。

**18:00 船渡御列出船**  
次々と船に乗り込み、厳かな水上の神事へ  
陸渡御を終えた一団は、次々と船へと乗り込みます。総数百艘余りの船団、御神霊をお乗せした御鳳凰船や供奉船は天神橋を発進し、大川の北上へ、御神霊をお迎える奉拝船の団は飛脚橋から大川を下ります。無数の篝火や提灯が大川を染める中、船渡御のスタートです。

**19:00 船上祭**  
火に浮かび上がる荘厳な水上の神事  
大川の中程、御鳳凰船の上では、荘厳かつ華麗な神事「船上祭」が始まります。他の船台船は神楽や伝統芸能が上演されます。かたわらでは天神祭囃子が響き、「どんどこ船」が船列と出会うたびに大鼓で景気を盛り上げます。水上を舞臺に、火と水、光と影の、静と動が一体となった夏の夜の祭典が繰り広げられるのです。

**22:00 宮入り・還御祭(本殿)**  
感動と渦の中、祭りは徐々にフィナーレへ!  
船渡御を終えた集団は上陸を開始し、一路天満宮表門へと進みます。祭りのフィナーレを飾るエネルギーな宮入りが始まるのです。まだまだ元氣いっぱい、の鳳神輿や玉神輿が次々と宮入りし、先には到着して待ち受ける催太鼓の面々と大鼓で手打ち。すべての宮入りが終わるのは10時過ぎ。本殿では、神事「還御祭」が厳かに執り行われ、熱燃えた二日間の幕が下ろされます。境内では余韻に浸る人々の顔、顔、顔、名残惜しそうな表情で、皆さん、お疲れさまでした。そしてまた、来年の祭りに向けての一步が始まります。

**どんどこ船** (船渡御中) ※大阪府指定無形民俗文化財(記録選択)  
中之島周辺から道頓堀川まで縦横無尽に漕ぎ回り、ムードをかき立ててくれるのが「どんどこ船」です。この船は船渡御の列には加わらない列外船で、神出鬼没かつ実に元氣いっぴいの存在。宵宮には、午後4時頃に宮入りもしています。今年も子供どんどこ船は絶好調。船は小振りながら打ち鳴らす鐘太鼓や巧みな囃さきは、大人顔負けの実力です。声援ロジックね!

**舞臺船** (船渡御中)  
日本の伝統芸能が勢揃いする船渡御の舞臺船では「能」「天神祭囃子」など、それぞれが趣向をこらした出し物を披露します。舞臺船の他に、船列に加わる「文案船」の研ぎ上げられた伝統の技の競演もじっくりと堪能ください。

**文楽船**  
天満宮舞子船  
能船

陸渡御列・船渡御列 色とりどりの衣装も艶やかに、総勢三千人余人の渡御列は壮観そのもの。

**第一陣**  
15:30 催太鼓 Mojoshidaro 天神祭は昔の祭りだ。真紅の投頭巾をかぶった顔入たちがかけ声も勇ましく打ち出す迫力満点の低音が渡御の先陣を切ります。  
16:00 獅子舞 Shinshai 古い歴史を誇る天神講の一団は600人近い大集団。華麗な舞を披露する獅子舞、「傘踊り」「四つ竹」も風情たっぷり。  
16:00 御鳳凰 Gonouen 目にも鮮やかな鳳の飾りが目印の豪華な御鳳凰。菅原道真公の御神霊を奉安した神輿で渡御の中心的存在です。

**第二陣**  
御菅蓋 Ougasaiki 雨儀用の御蓋(雨傘)です。  
御錦蓋 Ougasaiki 晴儀用の御蓋(日傘)です。  
御太刀 Ouchitai 旧大工町の氏子有志による丑日講が供奉。菅公の御太刀を所持して参加します。  
御羽車 Ouhiruma これもお神輿のひとつです。神様が乗られます。  
大真神 Oomaxaki 神講のご奉仕によって、大真神を捧持して参加します。  
総奉行 Souboukyo 実行委員長(協賛会副会長)です。  
神饌唐櫃 Shinsenkaraku 御旗講は大正9年から参加する。料理飲食店組合員たちです。  
錦旗 Kinu 旧此花町の氏子有志が集まった福梅講は、牛曳童児で参加します。  
文車 Fuguma 出版業者を中心とした御文庫講も参加。菅公お手持ちの御本をお運びします。

**第三陣**  
御鳳凰 Gonouen 目にも鮮やかな鳳の飾りが目印の豪華な御鳳凰。菅原道真公の御神霊を奉安した神輿で渡御の中心的存在です。  
瑞枝童児 Mizuedouji 前日の鈴流神事を務めた神童です。  
齋主(斎司) Saisyu(Chief Priest) 大阪天満宮宮司です。  
氏子総代 Ukesoudai 協賛会委員 Kouzanainin  
鳳神輿 Ouhiruma 菅南連合という8つの町内会で組織される鳳講。勇壮華麗に練り歩きます。  
玉神輿 Tamashikoshi 中央市場の玉神輿、両神輿がライバル心むき出しに、威勢良く漕ぎ抜けて舞い上がります。  
天神祭囃子 別列 渡御列の最後を締めくくる軽快なリズムを刻む祭囃子が聞こえてきました。さあ、期待を込めて船渡御見物へ、そろそろ向かいます。

**奉納花火**  
祭りの熱気は最高潮に!  
江戸時代には江戸・隅田川の花火と並び称された大阪・淀川の花火。神様に御覧いただくために打ち上げる「奉納花火」です。私たちがそれを陪観させていただくのです。  
1週間無料お試し読み キャンペーン実施中 (税込)  
月額料金は... **2,050円**  
0120-728-468  
水都祭「天神祭奉納花火」  
7/25(水) 19:20~20:50 ※雨天中止  
主催:水都祭実行委員会 大阪毎日新聞(新日本新聞社大阪本社) <http://www.nnn.co.jp/dainichi/>

**文楽 夏休み文楽特別公演**  
7月20日(土)~8月5日(月)  
1 親子劇場(午前11時開演)【お母さん親子童謡入り】  
2 日高川入相花王・解説 文楽ってなあに? かみなり太鼓  
3 名作劇場(午後2時開演)【福見舞入り】  
4 狂言 仮名手本忠臣蔵(五段目より七段目まで)  
5 サマーレイトショー(午後6時30分開演)  
国言音頭  
【電話】国立劇場チケットセンター(10時~18時) 0570(07)9900 / 03(3230)3000(一部IP電話等)  
【インターネット】国立劇場チケットセンター 検索  
【第1部】4,700円・学生2,400円・子供(18歳以下)1,900円  
【第2部(1時)】6,200円・学生4,300円(2時)2,800円・学生2,800円  
【第3部(1時)】4,000円・学生2,800円(2時)2,800円・学生2,800円  
国立文楽劇場 <https://www.ntj.jac.go.jp/>  
OsakaMetro・近鉄(日本橋)下車

電車・バスに乗り放題!  
観光スポット40ヶ所以上が無料!!!  
大阪エリア 1日券 ¥2,700  
2日券 ¥3,600  
大阪周遊バス  
乗降休日は、最新情報はHPで確認  
大阪周遊バス